

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年度目)

1. 研究課題

(和文) 灌頂と即位の文化史

(英文) Unction and Coronation

2. 研究代表者

(氏名) 藤井 正人

3. 研究期間

平成23年4月から平成26年3月まで

4. 研究目的 (400字程度)

本共同研究は、共同研究「王権と儀礼」(2005.4-2011.3)を進展させるため、テーマを新たに
して発足させるものである。前共同研究では王権とそれに関わる儀礼全般を対象としてきたが、
この共同研究では、古代インドなどにおいて即位や入門の儀礼で中心的な行為となっている「灌
頂」に焦点をあて、その行為の基本形態、類型、変化、伝播、異文化との混交などに関して、文
化史的アプローチから研究する。広範囲の地域と時代にわたる文化事象として、古代インドの、
王即位式をはじめとするさまざまな祭式に現れる「灌頂」から、インド、中国、日本の仏教の入門
入信儀礼における「灌頂」、さらには、天皇の即位儀礼としての「灌頂」などが研究の対象となり
うる。研究方法としては、各種事例の比較研究を進めるとともに、他分野の研究者に負担をかけ
ない形で文献資料の基礎研究をも行なう。具体的には、課題に関する研究報告を集中的に行なう
「研究集会」と、古代インドの王即位式に関するサンスクリット資料の校訂と訳注を行なう「会
読」という二種の研究会を、切り離れた形で開催して研究を進める予定である。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

初年度に引き続き、「会読」を中心に共同研究を行なった。灌頂儀礼が詳細な形で現れる古
代インドの王即位式(ラージャスーヤ)に関する文献研究のために、ヴェーダ祭式文献の中か
ら、成立年代の比較的古いブラーフマナ文献(祭儀書)と新しいシュラウターストラ文献(祭
式綱要書)から、未翻訳の『タイッティリーヤ・ブラーフマナ』と、文献および学派伝統の上
でそれと関係のある未出版・未翻訳の『ヴァードゥーラ・シュラウターストラ』を取り上げ、
両文献の当該箇所を班員が共同で会読・分析し、英語による訳注の作成を継続した。2年度目
の本年度後半(12月)に、タントラの第一人者であるオックスフォード大学サンダーソン教授を
招いて、班員を中心に、「古代・中世インドにおける潔斎、入門・入信、即位の諸儀礼」をテ
ーマにした国際シンポジウムを開催した。

6. 研究成果の概要 (400字程度)

本年度の各研究会での研究内容は以下のとおりである。

5月18日(会読) VadhSS 10.6.0-12; TB 1.7.1-2

手嶋英貴

6月1日(会読) VadhSS 10.6.12-42; TB 1.7.6.2-5

井狩彌介

- 6月15日（会読）VadhSS 10.6.43-53; 10.7.1-20 大島智靖
- 7月13日（会読）TB 1.7.6-9 (1) 大島智靖
- 11月16日（会読）TB 1.7.6-9 (2); VadhSS 10.7.21-42 (1) 大島智靖、横地優子
- 11月30日（会読）VadhSS 10.7.21-42 (2) 横地優子
- 12月14日（会読）TB 1.7.9; VadhSS 10.7.43-8.10 (1) 横地優子、小林正人
- 12月24日（研究集会）The International Symposium “Consecration, Initiation, and Coronation Rituals in Ancient and Medieval India”
 基調講演：Alex Sanderson（オックスフォード大学）
 発表者：永ノ尾信悟、井狩彌介、大島智靖、藤井正人、手嶋英貴、梶原三恵子、横地優子、Diwakar Acharya、Som Dev Vasudeva
 参加者数：48名（外国人7名、大学院生13名）
- 2月22日（会読）VadhSS 10.7.43-8.10 (2); TB 1.7.10.1-4 小林正人
- 本年度末の段階で、両文献の王即位式（ラージャスーヤ）の箇所約3分の2に対して、英語の訳注を作成した。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況（上記国際シンポジウムの班員外参加者を除く）

区 分	機関数	受入人数		延べ人数	
		外国人	大学院生	外国人	大学院生
学内（法人内）	2	5		41	
国立大学	2	6	1	42	7
公立大学					
私立大学	1	1		8	
大学共同利用機関法人					
独立行政法人等公的研究機関					
民間機関					
外国機関					
その他					
計	5	12	1	91	7

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

（例）・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

論文数	4	
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	0
	()	()

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割		
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名